

## もの言う牧師のエッセー 第334話

平昌五輪

### ③ 「美しき氷上の戦い」

ドーピング問題により国としての参加は認められず、個人資格での参加となった今回の五輪でロシアはメダル獲得数で伸び悩み、国内人気は盛り上がりには欠けた。その思い苦しい空気を最後に変えたのが、アリーナ・ザギトワ選手と、エフゲニア・メドベデワ選手の「美しき氷上の戦い」による金銀メダル獲得だった。特に、銀メダルという結果に終わりながら、メドベデワの愛に満ち溢れた振る舞いには世界が唸った。

最終滑走の彼女のフリーの得点は156.65点。ザギトワに僅か1.31点及ばなかった。シーズン途中に見舞われた右足の怪我という試練を乗り越え、「今日の勝利のために私は、練習して、練習して、練習して...」。しかし結果は無念の銀メダル。だがメドベデワはそこで肩を落とすようなことはしなかった。何度も涙を拭きながら笑顔でカメラに手を振ってみせた。そして、遠くにザギトワの姿を認めると一目散に彼女のもとへ駆け寄り、そして30秒にわたって2人は抱き合った。同じリンクで練習に励んできた2人だけに、これまでどれほどの苦労を重ねてきたかをお互いが一番良く知っており、戦いを終えても大親友だ。

思えば、彼女が怪我で欠場した昨年12月のGPファイナル、そしてロシア選手権と次々にザギトワが勝利していき、ついに今年1月の欧州選手権で彼女を下しての優勝。いよいよ自分を脅かす存在となったにもかかわらず、彼女のザギトワへの温かい態度は変わらず、それどころか、国際大会にまだ不慣れなザギトワを事あるごとにアシスト。ザギトワが英語が話せないので通訳してあげることも。

今や脅威となったはずの“妹”ザギトワへの惜しみないメドベデワの愛を見て、聖書中屈指の友情物語、ヨナタンとダビデを思い出した。イスラエルがまだ小さく弱かった頃、単身ヨナタンは大軍に斬り込み、味方に大勝利をもたらすほどの豪傑ながら、その優しい人柄は誰からも愛されたが、まだ少年だったダビデの実力を見抜き、自身が王位継承者であるにもかかわらずダビデを徹底して支え、ダビデの王位確立のために奔走したのだった。ヨナタンが討ち死にした時、

**「私の兄弟ヨナタンよ。あなたは私を大いに喜ばせ、あなたの私への愛は、  
女の愛にもまさって、素晴らしかった。」 第二サムエル記1章26節、**

とダビデは詠っている。正にこれは後に現われるキリストの愛の予告であり、自身を犠牲にして我らを救い、今も我らを支え導くイエスの連綿と続く物語だ。彼がやがて暗い空気を一掃し、世界中が唸る歓喜の時が訪れる。

2018-4-20

